

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 30 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370532

研究課題名(和文) 愛知県・福井県の方言データベース構築および岐阜県方言との関連における総合的研究

研究課題名(英文) Database construction of Aichi and Fukui dialects and general study in connection with the Gifu dialect

研究代表者

山田 敏弘 (YAMADA, Toshihiro)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：90298315

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：岐阜県方言と関係が大きい愛知県方言データベースを、主に市町村史データから作成した。総項目数は、44,753項目である。そのデータベースを用いて、岐阜県方言が他県の方言とどのようなつながり・断絶をもつのかを、808枚の地図を作成することによって示した。また、その地図から読み取れる、岐阜県方言の特徴を記述した。
さらに、岐阜県方言辞典を改訂・増補し刊行した。

研究成果の概要(英文)：Dialect database was made which contains 44,753 dialectal items from city/town/village history books published in Aichi Prefecture, which is closely connected with Gifu prefecture from a dialectal point of view. I also showed whether the Gifu dialect and Aichi dialect are independent or closely related with 808 dialect maps drawn from this database. The result is described in papers.
I also published a revised and enlarged edition of the Gifu Dialect Dictionary.

研究分野：日本語学・岐阜方言

キーワード：岐阜県方言 愛知県方言 方言辞典 方言地図

1. 研究開始当初の背景

岐阜県内の方言記述は、20世紀、他県に比べ格段に遅れていた。このことは、1960年代に岐阜大学に奉職し『岐阜県方言の研究』も編まれた奥村三雄氏が退職された後、県内の大学に岐阜県方言を専門とする研究者がいなかったことに主としてよるものである。

もちろん、岐阜県方言に関する研究はあり、また方言に関する刊行物も種々出版されてはいたが、県内の方言語彙をまとめた辞典は、地域限定のものが多く、また語彙的にも限られていた。そこで、本科研申請者は、前回の科学研究費基盤研究(C)(課題番号23520549)において、総異なり項目数5,909、のべ31,777項目を含む5冊の辞典を刊行した。

しかし、多くの方言が隣県方言との連続と相違によって記述されるように、岐阜県方言と隣県方言との比較を描く必要を、前回の科研費研究終了後、強く感じていた。特に、江戸時代に大きな影響を受けた尾張藩との関係は、岐阜県方言の性格を正しく記述するためにも明確にしておかなければならない点であった。

また、辞書として記述するだけでは、一般の人が見てすぐ理解できる形式とはならない。地図を描き分布をわかりやすく公表する必要がある。全国調査による岐阜県内の語彙分布は、実際地点数からして粗く、また調査項目も限られていて、隣県の状況を含め知りたい語の分布が明確でないことも多々あった。

本研究は、このような岐阜県方言に関する不足を補う研究として開始された。

2. 研究の目的

今回の科研費基盤研究(C)においては、美濃地方との関係が深い愛知県尾張地方、さらに東濃地方との連続性が散見される愛知県三河地方、また、飛騨地方との関係が考えられる福井県大野地方の語彙・文法事項を、市町村史に記述されたものを中心に比較し、岐阜県方言の性格付けを明確にしようとするものである。

詳細は以下の通りである。

(1) 愛知県・福井県内で既刊の方言集や市町村史等の資料、ならびに方言談話資料を、網羅的に収集する。その上で、画像ならびにテキストデータの形式でデータベース化すること。市町村史を選んだ理由は、公的機関による編纂・出版であることと、地点が明確である点である。

(2) (1)を用い、また全国各地の方言に関する記述も参照しながら、愛知県・福井県の語彙分布を、岐阜県との連続性において地図化し考察すること。

(3) (1)および(2)に関して、研究者のみならず、

岐阜県内外の方言に関心がある人が利用しやすい形で公表すること。

これらの成果は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」や、別に連携研究者として参加している科研費による研究『全国方言文法辞典』プロジェクトにおいて、用例提供等が提供される。

3. 研究の方法

本研究は、上記、(1)愛知県・福井県方言データベースの構築、(2)(1)の結果と岐阜県方言とを結びつけた考察、(3)(1)の結果の一般にもわかりやすい形式での公表の3点である。

(1) 愛知県・福井県方言データベースの構築
愛知県内すべての市町村のデータを、『全国地方史総目録』収録史誌を基準に収集し、エクセルファイルに集積する。これによって、ソートや検索が容易にできるようになる。

(2) 岐阜県方言との関連の考察

(1)で作成したデータベースから、岐阜県を中心とした方言地図を描いていく。

上記地図を用いて、岐阜県内を通過して愛知県内へと流入した語彙であるのか、愛知県から岐阜県内へと江戸時代の支配を通じて流入した語彙であるのかなどを考察していく。

(3) 成果公表

岐阜県を中心とした研究ではあるが、隣県とのつながりを辞書・方言地図として、一般にもわかりやすい形で成果を公表していく。

4. 研究成果

愛知県は、岐阜県よりも面積こそ小さいが、人口は現在約4倍もある大きな県である。市町村数も岐阜県より多く、その点でデータ収集・整理に労力が要った。結果として、福井県のデータは、収集するだけとなり、今回の結果公表に間に合わなくなった。今後、公表に向けて引き続き作業を続けたい。

(1) 愛知県方言データベースの構築

愛知県内のすべての市町村史から、方言に関する記述をデータベース化した。なお、尾張地方西南部のように、方言語彙としての記述に限られ民俗語彙として農具・漁具などの名称を記述しているものは、今回除外した。結果、115点の市町村史から、総項目数44,753項目の方言語彙がデータとして収集された。

どの時代にどの地域でどのような手法により方言収集がなされたかということ自体も貴重な資料となる。その点は、5の雑誌論文、①～④として公表した。

(2) 岐阜県との関連における記述

今回採択された科研の題目は、あくまで岐阜県方言との関連における隣県方言の研究である。であれば、愛知県方言だけを取り上げた辞書を編纂することは目的外である。また、岐阜県方言として記述した俚言の語誌等と重複する内容も目的に合致しないため、関連を分布地図という形で表すことにした。

地図化については、名古屋大学工学部電気電子・情報工学科(当時)在学中の山田智也氏開発による Ruby をベースにした画像化ソフトを使用した。当該ソフトは、岐阜県と愛知県の異なる2つのエクセルデータから、該当する語形を検索し、その語形の情報として付記されている収録市町村史を呼び出し、その位置を地図上に指定された記号でプロットするというものである。検索語彙は、エクセル上で自由に設定でき、それを地図上に表現する記号も Unicode にある記号であれば任意に設定できるため、素人にも扱いやすい。また、正規表現も使用でき、「[^]」という文字列で始まるセルを検索する場合には「[^]」終わるセルを検索する場合には「\$」などと指定できる。また、完全一致か部分一致を指定できるため、同音異義語の区別、ならびに、複数語彙が列挙されているデータからの検索も可能となっている。

10. 「こぼれる」「こぼす」



上掲と同様の地図を808枚描くことにより、岐阜県と愛知県との語彙的なつながりと分断を、地図上に示すことができた。結果は、雑誌論文として公表した。

(3) 成果刊行

上記のような地図808枚を収めた方言地図帳(240pp.)と、その基となる岐阜県方言辞典(520pp.)を、科研費報告書として刊行し2017

年4月以降図書館等に配付を開始し、一般に公開している。

また、得られた知見を用いて、連携する研究における基礎データとして調査を円滑に進めるために用いたり、隣県研究者にデータを貸与して交流したりもしている。

県民へのフィードバックについては、岐阜県図書館において2017年5月と9月に講演会が予定されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

山田敏弘、飛騨方言の語源に関する小考、斐太紀、査読無し、第16巻、2017、pp.114-125

山田敏弘、岐阜県方言と愛知県方言の連続性、岐阜大学教育学部研究報告 人文科学、査読無し、第65巻第2号、2017、pp.1-10

山田敏弘、額田郡誌常磐資料に見られる方言記述、岐阜大学国語国文学、査読無し、第41号、2016、pp.25-51

山田敏弘、愛知県額田郡誌資料に見られる方言記述、岐阜大学教育学部研究報告 人文科学、査読無し、第64巻第2号、2016、pp.1-10

山田敏弘、愛知県三河地方郡市町村史に見られる方言記述・研究、岐阜大学教育学部研究報告 人文科学、査読無し、第63巻第2号、2015、pp.11-20

山田敏弘、愛知県尾張地方郡市町村史に見られる方言記述・研究、岐阜大学教育学部研究報告 人文科学、査読無し、第63巻第1号、2014、pp.1-11

〔学会発表〕(計1件)

山田敏弘、方言教材の開発、日本方言研究会 第102回研究発表会シンポジウム、2016.5.13 学習院大学

〔図書〕(計3件)

山田敏弘、コムラ、改訂増補統一版岐阜県方言辞典 岐阜県・愛知県方言地図、2017、240pp.

山田敏弘、コムラ、改訂増補統一版岐阜県方言辞典、2017、520pp.

山田敏弘、コムラ、岐阜と愛知の方言地図集、2015、132pp.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等の作成はしていない。

6. 研究組織

(1)研究代表者

山田 敏弘 (YAMADA, Toshihiro)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：90298315

(2)研究分担者

なし